

「全道自主夜間中学交流会」第4回実行委員会のまとめ

この実行委員会開催をもって、最後の実行委員会とするため、釧路「くるかい」の添田さんが、札幌にこられる日程にあわせて、開催することにしました。函館遠友塾からは、今西さんが都合をつけられないため、文書で交流会のまとめを送ってもらうことにしましたが、それは当日まで間に合いませんでした。

場所：札幌市男女共同参画センターエルプラザ2階消費者サロン

出席者：飯塚、泉、工藤、境、篠原、白倉、船木（敬称略）で午後9時まで話し合い、以降、添田を交えた、飯塚、泉、工藤との4名で話し合いました。

前段の議事

1. 2011年度、第2回北海道自主夜間中学「生活体験発表会」の反省
 - (1) 事前準備
 - (2) 当日進行
 - (3) 事後
2. 来年度、2012年度開催に向けて
3. その他

1. について

情宣について、チラシ作成および枚数（1,200 枚）も間に合い、また、後援を北海道教育委員会、札幌市教育委員会にしたのも良かった。

実行委員会形式にしたことは、各自主夜間中学の独自性を出すことになった。そのそれぞれが発表者の選出や発表する内容を受講生（学習者）とスタッフ（支援者）らが一緒になってふくらませ、すばらしいものになった。旭川遠友塾は実行委員会に入らなかったが、生徒会で検討し、当日会場で発言をしてくれた。

参加者は名簿記載 86 名。会場席数は満席となった。

函館遠友塾 4 名（スタッフ）、釧路「くるかい」 3 名（学習者 2 名・支援者 1 名）、旭川遠友塾（受講者 1 名・スタッフ 1 名）

札幌遠友塾受講生および卒業生

市議会議員（日本共産党 2 名・市民ネット 1 名）

報道関係者（北海道新聞 2 名）

各区区民センター（西・東・豊平・清田）や駅前地下街に置いたチラシを見て来た人が何名いたかを掌握できておらず、今後について、受付名簿の記載項目で分るようにしたらどうか。

アンケートの協力について、司会からの案内はできず、回収が少なかったが、記述項目にはほぼ全員が書いてくれていた。

その中で、交流会形式を「シンポジウムのようなコーディネーター」をたてて、いろいろ問題点やら、提言やらを4校の人たちで話すことがあったら良かった」とする回答があった。

各自主夜間中学の授業の様子を紹介するDVD映写についても、予想を超える出来映えとなった。

その音響機器の操作にも大きなトラブルがなく、スムーズであった。

冒頭での参加議員の紹介、寄せられたメッセージについて、名前の紹介で終えたのは、会の進行を考えてのこと。時間配分も適切で、参加者の意見交流など、司会者の手際の良さもあって、各自主夜間中学の受講生の意見を引き出し、また、卒業生や賛助会員からも、意見および激励の言葉をもらうなど内容のあるものになった。

発表会後にも、札幌遠友塾全体会議で発表にかかわったスタッフから、発表までの受講生の努力や当日の様子を参加できなかった者たちに詳しく説明していた。釧路「くるかい」でも、発表者

二人が皆に説明し、「大変良かった、お世話になった」との礼が寄せられました。

【追記】 函館遠友塾からの電話報告

実行委員会形式、日程、当日進行ともにとってもよかった。来年度に向けたこの会計は、各自主夜間中学の受講生・学習者やスタッフ（支援者）の人数掛けるいくらかで分担する予算を組んだらどうか、という提案あり。

この後は、記録誌のまとめと印刷、発送作業。

【支出報告】（別紙添付）

総額 160,278 円

- ・発表者支援について、交通費と宿泊費の実費全額を支払い。
- ・発表者以外の受講生支援（旭川交通費：2,000 円支払い）
- ・釧路・函館のスタッフ・支援者の支援は交通費実費の4割支払い。

今回は、「北海道に夜間中学をつくる会」が予算計上した金額でまかなうことになり、各自主夜間中学で分担することはなくなりました。

来年度について、この金額を4団体で割った4万円程度を、各自主夜間中学の予算に計上する。（詳細については次年度の実行委員会で

決める)

なお、発表者以外の受講生・学習者、スタッフ・支援者の参加支援については、各自主夜間中学で別途予算化する。

2. について

釧路開催の予定。

「くるかい」と釧路市教育委員会とで実施の事業計画づくりに、すでに入った。釧路以外の発表者・参加者支援などについても。

その計画案件をもって、実行委員会を結成し、各自主夜間中学でその内容をすりあわせていく。

「北海道に夜間中学をつくる会」は、今回同様に、事務局を担当し、各自主夜間中学のつなぎなど裏方の役割を果たす。

以上

この後、メンバーの一人から意見が寄せられましたので、追記します。(2011/11/05)

生活体験発表への提案

最後の実行委員会に参加できなくて申しわけありませんでした。報告が出た後ですが、初めて参加して私も色々考える事がありました。で、唐突ですが今後に向けて私の意見を述べさせてください。要点は全ての点で早めの検討と準備が必要ではないか、ということです。各項目を考えていくとそうなります。ただし、今までの事情など考慮していませんので失礼がありましたら許してください。

夜間中学紹介

紹介というより、この1年のトピックを報告するという形の方が長続きする

のではないのでしょうか。手法はいろいろありますが、日常的に何らかの発表できる形で記録を残す。それをまとめ紹介する。従って準備は日常的にと言う事になります。ツールは文章、写真、ビデオ、音声などありますが最後はパソコンでまとめるのがベストかなと思います。その事により各夜間中学の報告会という側面を出し、各夜間中学の予算措置をしやすくできるかと思います。

体験発表

発表している時に、同時に発表者の情報をスクリーンで紹介する。授業のようす、生活のようす、趣味など。もちろん発表の邪魔にならないよう配慮しなければなりませんので、動画ではなく写真や文字、イラストなどが適当かもしれません。

意見交換

魅力あるコメンテーターを準備する。発表を受けてまずコメンテーターが感想と議論点を紹介し会場の人に意見を促せば活発になりそうです。さらに体験発表の後、休憩を設けても帰る人を少なくすることができます。

レイアウト

遠友塾で行っている「はじめの会」のような形が良いのではないのでしょうか。発表者を中心とした馬蹄形というのでしょうか。この前は泉さんから提案がありました。残念ながら時間がなくボツになりましたが、事前に実際的な検討を十分積んでおけばいけると思います。従ってこれも早い段階から検討が必要です。

全体構成

もちろん今まで述べた各項目の前に、全体構成をどうするかという問題がありますが、いずれにせよ全体構成と各項目はキャッチボールのような関係にあります。全体構成は各項目に影響しますし、各項目の是非は全体に影響しますので、整合のとれた検討を進めるためにも早い立ち上がりが必要ではないのでしょうか。